

# 環境・安全報告書 2020



**ASAHI  
YUKIZAI**

当社の2019年度の事業活動における環境・安全に対する取り組みと成果をご報告いたします。

## CONTENTS

1. 環境・安全に対する基本姿勢
2. 環境保全への取り組み
3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み
4. 保安防災への取り組み
5. 製品安全への取り組み
6. 地域・社会との協調と共生

### 1. 環境・安全に対する基本姿勢

#### 1) 環境・安全に関する経営方針

当社では、環境・安全に関する経営方針を定めておりその方針の下、環境・安全に関する構成要素ごとに目標を定め達成に向けて社員一丸となり取り組んでいます。

##### 理 念

当社は、環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

##### 方 針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

##### ●環境保全活動の推進

製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。

##### ●安全衛生活動の推進

安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。

##### ●健康の保持と増進

快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。

##### ●保安防災活動の推進

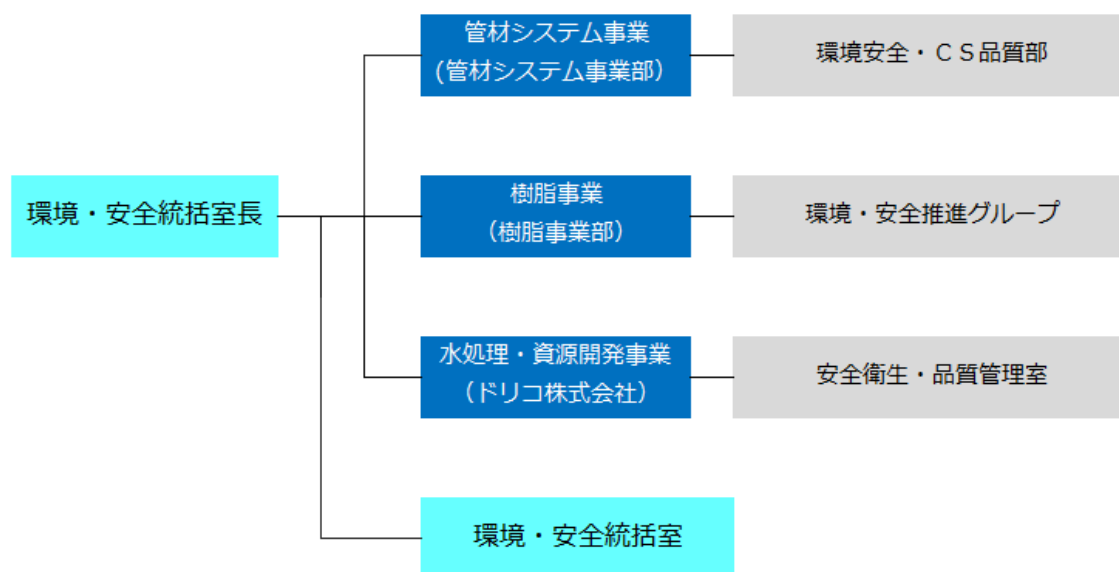
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。

##### ●製品安全の確保

製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

## 2) 環境・安全に関する社内推進体制

当社グループでは環境・安全統括室長の下、環境・安全活動を統括しています。



## 3) 環境・安全に関する重点課題

当社グループでは「環境・安全に関する経営方針」の下、以下の重点課題を掲げておりさらに重点課題に基づいたそれぞれの環境・安全に関する目標を設定し取り組んでいます。

| 項 目     | 重点課題                                                                                                                                                  |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境保全    | ① ゼロエミッションに向けた取り組み<br>② 地球温暖化防止対策活動（エネルギー原単位とエネルギー起源 CO2 排出量の削減）<br>③ 環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減<br>④ 地域貢献活動の推進                                              |
| 化学物質    | ① 生産活動における有害化学物質の適正な管理<br>② 化学物質による環境負荷の低減<br>③ 製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃                                                                                |
| 安全衛生・健康 | ① 5 S 活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進<br>② リスクアセスメントによる設備・機械の本質安全化の追求<br>③ 管理監督者の率先垂範による自主的な安全活動の実践<br>④ 日常的な安全活動「教育、HHK（ヒヤリハット気ばかり）、KYT（危険予知トレーニング）」、健康保持増進等の推進 |
| 保安防災    | ① 安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上<br>② 主要拠点での事業継続計画（BCP）の構築<br>③ 緊急時のための効果的な実地訓練の実施                                                                          |

## 2. 環境保全への取り組み

当社はISO14001 環境マネジメントシステムをベースに環境保全に取り組んでいます。

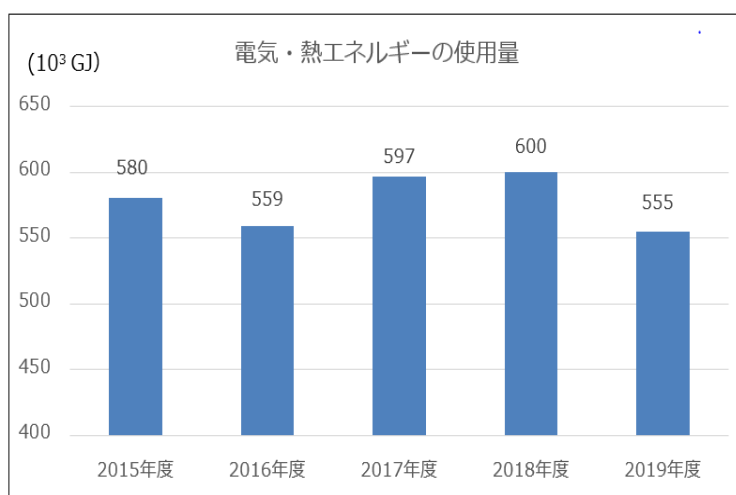
その結果、今までは各種エネルギー使用量の削減、それらの消費原単位の改善、廃棄物の削減等、成果を上げてきましたが 2019 年度は米中貿易摩擦、コロナウィルス感染拡大など事業環境が大きく変動し、生産量が低下した関係上トレンドが大きく異なる結果となっています。全体的に、エネルギーの使用量そのものは減少し原単位は悪化しています。

### 1) エネルギー使用量

#### ・電気・熱エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する電気・熱エネルギーは約 555 千 GJ と、昨年度に比べ約 45 千 GJ (約 8.1%) 減少しました。

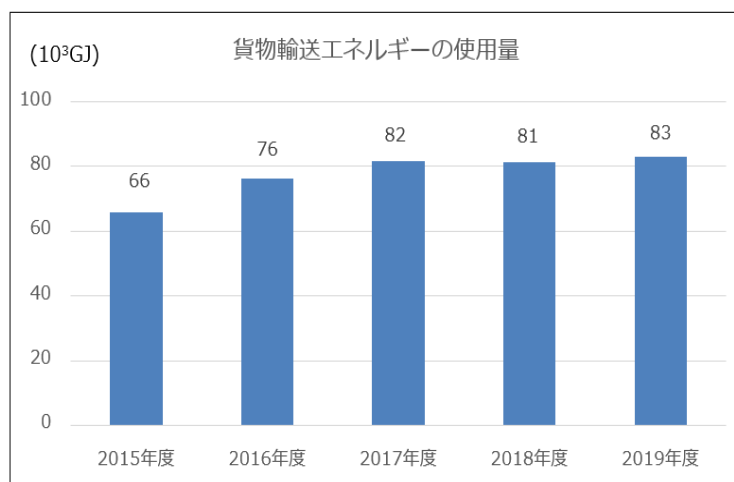
※エネルギー使用量は、換算係数により GJ へ換算。



#### ・貨物輸送エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する貨物・輸送エネルギーは約 83 千 GJ とほぼ横ばいで推移しています。

※エネルギー使用量は、換算係数により GJ へ換算。



### 2) 省エネルギーと地球温暖化防止

#### ・電気・熱エネルギー消費原単位の削減

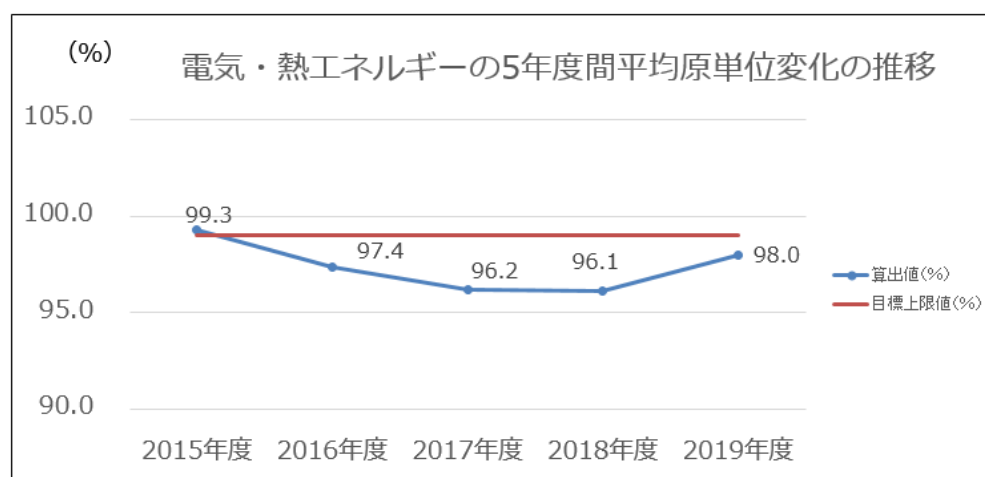
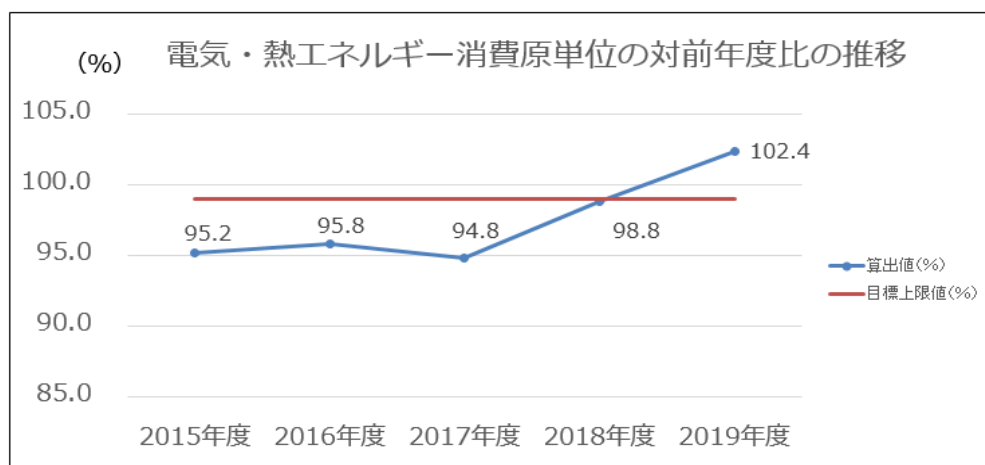
当社は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(以下、省エネ法)における「特定事業者」に指定されており、九州経済産業局に毎年、電気・熱エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。特定事業者は電気・熱エネルギー消費原単位の対前年度比 1 %以上及び中長期的にみた年平均 1 %以上低減への努力が求められています。

2019 年度の原単位は対前年度比で 3.6%の悪化となり、目標値の 99%以下も未達でした。さらに 5 年度間平均原単位変化推移の目標値についても 1.9%悪化しましたが、目標値の 99%以下は達成しました。

\* 資源エネルギー庁の評価制度において、2 年連続で「S 評価」を頂きました。

当社では計画的に省エネ関連投資を推進しており、省エネルギー設備の導入、LED 照明への切り替え、エネルギー効率の向上を図りましたが、生産量が減少したため原単位は対前年度比で悪化しています。

2020 年度も省エネ法の特定事業者に課せられた努力義務を果たせるよう電気・熱エネルギーの消費効率の改善に努めます。



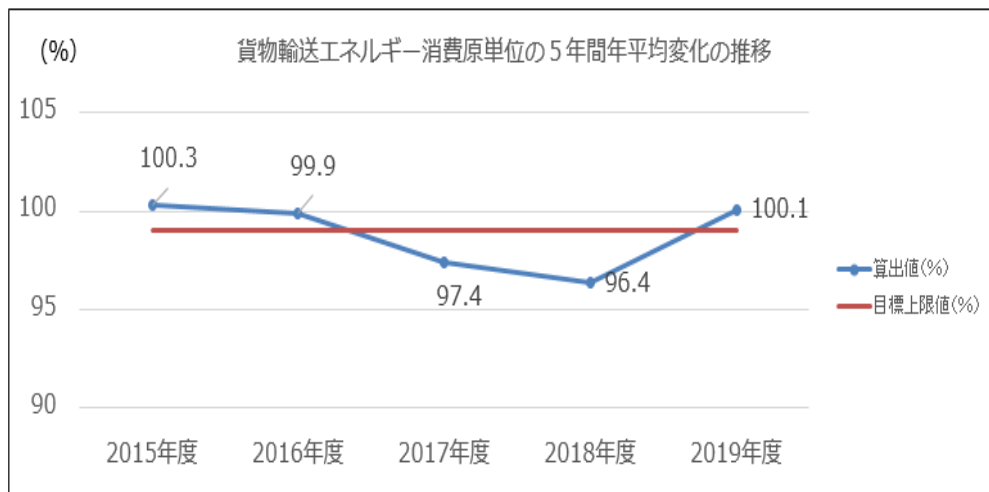
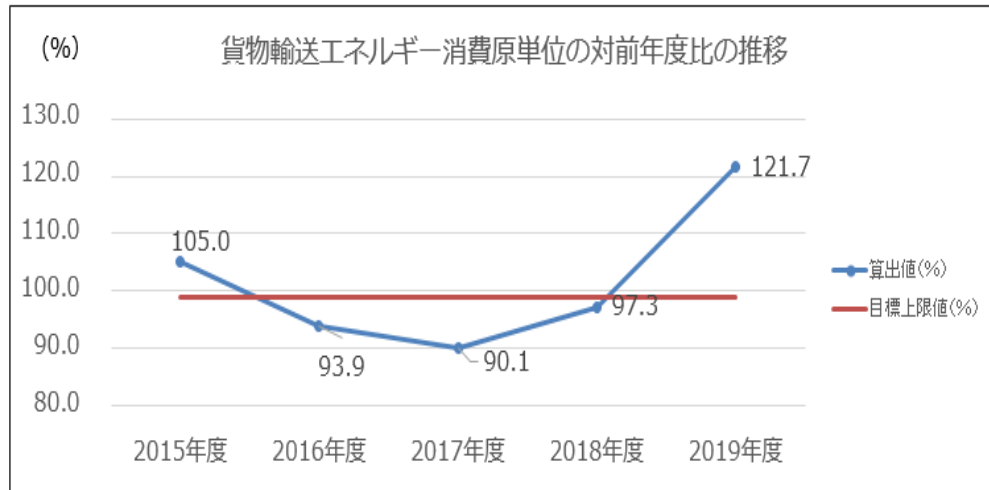
#### ・貨物輸送エネルギー消費原単位の削減

当社は省エネ法における「特定荷主」に指定されており、九州経済産業局に毎年貨物輸送エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。

特定荷主は貨物輸送エネルギー消費原単位の対前年度比 1 %以上及び中長期的にみた年平均 1 %以上低減への努力が求められています。

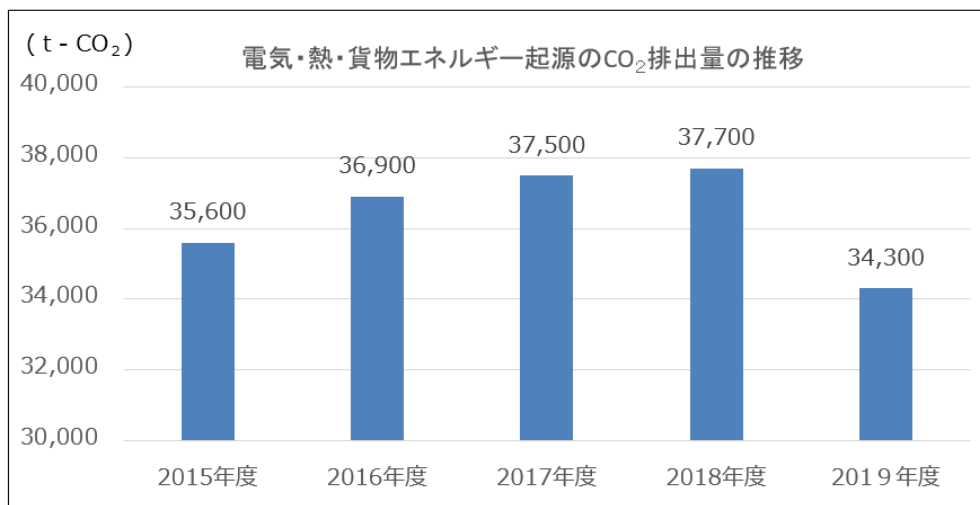
2019 年度の原単位は対前年度比で 24.4%の悪化となり、また 5 年間平均原単位変化推移についても 3.7%悪化しました。輸送量の多くを占めるのは樹脂事業製品（RCS）であり、今まで積載率の向上、配送車両の大型化を図ってきましたが、生産量減少が大きく影響し今回の悪化となりました。

2020 年度も省エネ法の特定荷主に課せられた努力義務を果たせるよう物流効率の改善に努めます。



#### ・電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量の削減

省エネ法に基づく 2019 年度の当社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO<sub>2</sub> の排出量は、当社目標である 40,100t-CO<sub>2</sub> に対し実績は 34,300t-CO<sub>2</sub> となり、また 2018 年度と比べても 3,400t と約 9% 減少しました。その理由は生産量の減少によるものが主ですが、設備に使用する燃料の油種変更、高効率な設備への変更、自治体主催の CO<sub>2</sub> 削減の取り組み及び物流の効率化など積極的な省エネ活動なども有効に機能したことで CO<sub>2</sub> は抑えられています。



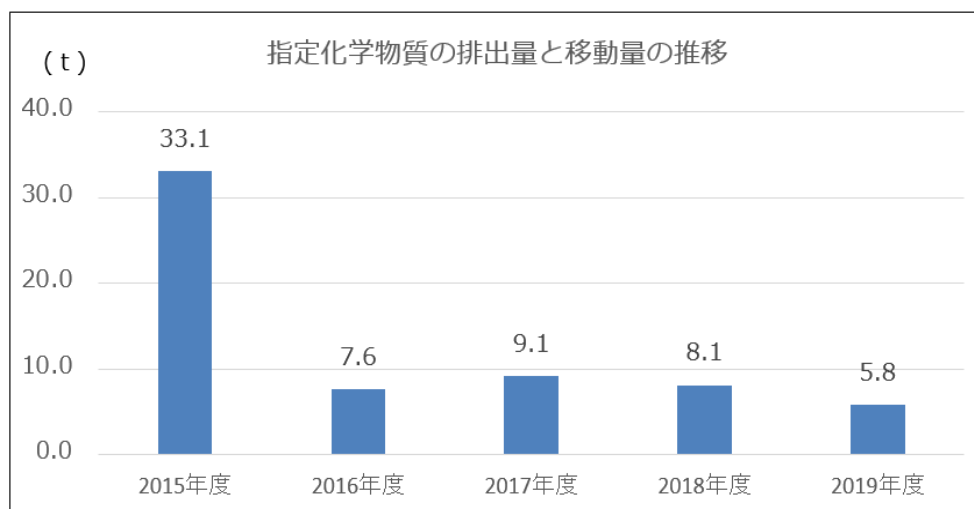
### 3) 環境保全

#### ・指定化学物質の排出量、移動量及びその低減対策

化学物質管理促進法により指定されている化学物質の当社における排出量及び移動量は、2018 年度と比べ 2019 年度は約 28%減少しました。

当社では指定化学物質を含む原材料が入っている廃棄物量の削減に努力しており、今後も指定化学物質を適正に管理すると共に排出量・移動量の削減に努めます。

※ 化学物質管理促進法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。



※2015 年度の大幅な増加は樹脂事業製品の不回転在庫を産業廃棄物として、一括処理した事による一時的な増加です。

P R T Rに基づき当社が管理している指定化学物質

| 工場   | 指定化学物質名称                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 延岡工場 | 有機スズ化合物、鉛及びその化合物、アンチモン及びその化合物、ヘキサメチレンテトラミン、フェノール、ジシクロペンタジエン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート                                                                                                                                                                                          |
| 愛知工場 | 亜鉛の水溶性化合物、ビスフェノール A、エピクロロヒドリン、2,4 キシレノール、2,6 キシレノール、キシレン、クメン、グリオキサール、クレゾール、1,4 ジオキサン、N,N ジメチルホルムアミド、ヘキサメチレンテトラミン、テトラエチレンペンタミン、トリエチルアミン、1,2,4 トリメチルベンゼン、1,3,5 トリメチルベンゼン、ナフタレン、フェノール、ホルムアルデヒド、メチルナフタレン、メチレンビス(4,1-フェニレン)、リン酸トリノルマルーブチル、鉛化合物、2-エチルヘキサン酸、カプロラクタム、酢酸マンガン、ダイオキシン類、DMF |
| 栃木工場 | ヘキサメチレンテトラミン、亜鉛の水溶性化合物、有機スズ化合物、鉛及びその化合物、ダイオキシン類                                                                                                                                                                                                                                 |
| 広島工場 | ヘキサメチレンテトラミン、ダイオキシン類                                                                                                                                                                                                                                                            |

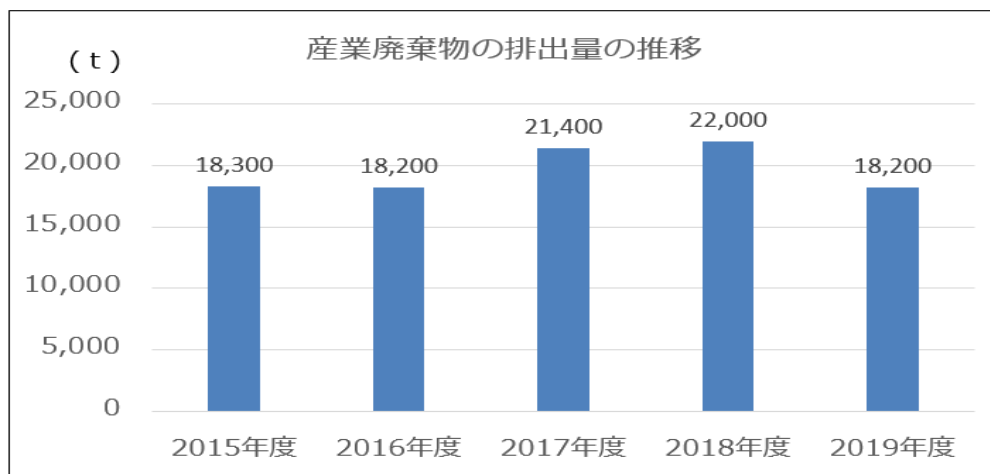
※ PRTR とは、化管法により指定されている化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

## ・産業廃棄物の総排出量

当社は、産業廃棄物を削減するための代表的な取り組みである4 R（抑制・削減・再利用・再資源）により、産業廃棄物の総排出量の削減と発生した産業廃棄物の有効利用に努め、さらには総排出量から単純（埋立）処分される産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）を推進しています。

2019年度の総排出量の実績は18,200tとなり、2018年度と比べて約17%減少しました。

産業廃棄物はISO14001の環境目標にも設定しており、更なる廃棄物の排出量抑制に努めています。



## ・産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量

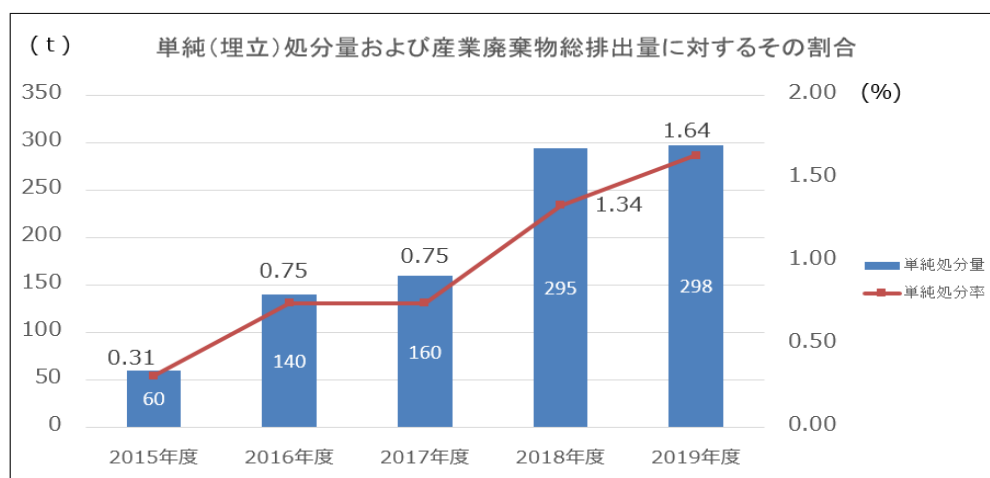
2019年度の単純（埋立）処分量および産業廃棄物総排出量に対するその割合は、2018年度に比べ単純処分量はほぼ横ばいでしたが、単純処分率は0.3%増加しました。理由としては、中国のプラスチック廃棄物の受け入れ中止により有価物として処理できた品種が減少したことによります。

単純（埋立）処分量の低減等に向けた当社の主な取り組みとしては、

- ・ 4 R（抑制・削減・再利用・再資源）の徹底
- ・ 産業廃棄物を細かく分別し、可能な限り有価物化する。
- ・ 市場での有効利用のニーズの探索

を推進します。

さらに、今後も産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量の割合を1%以下に抑えるよう努めます。





## LEDへの切り替え

当社の製造工場では環境保全と経費削減の一環として照明のLEDへの切り替えを2017年度以降計画的に進めています。その結果、管材システム事業部で約86%、樹脂事業部で約75%の取替えが行われ従来の照明と比較し70%の省エネ効果が得られました。さらに明るく、発熱が少なく、長寿命という効果も得られています。将来的には照明100%のLED化を目指しています。

## 3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み

### 1) 安全衛生活動の取り組み

#### ・安全衛生活動の方針

「無事故・無災害」は経営者及び管理監督者の使命であるとの認識の下、必要な経営資源の積極的投入及び率先垂範の励行により、「誰もが安心して健康に働くことができる職場」の実現に向け労働安全衛生活動を推進しています。

### 2) 労働災害

#### ・当社グループの労働災害発生件数

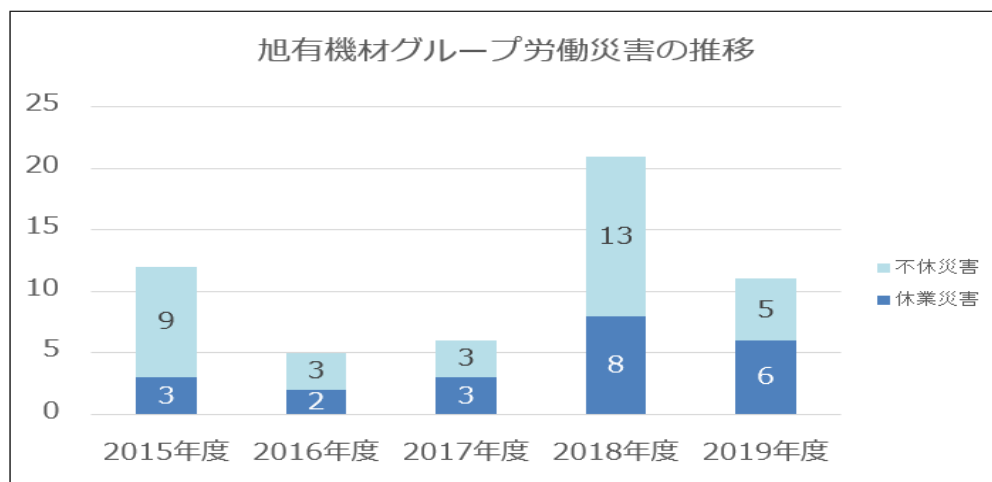
2019年度の労働災害の発生件数は2018年度と比べて休業災害は横ばいでしたが、不労災害に関しては半減しました。

当社グループでは、さらに安全な職場づくりをめざし管理監督者の率先垂範による安全活動の実践、安全な人づくり（危険に対する感性の向上）、安全な場づくり（安全で働きやすい職場環境づくり）などを掲げ、具体的な活動計画に基づいて労働災害の防止に向け取り組んでいます。また社長、事業部長による国内すべての製造工場を対象とした安全パトロール、管理監督者・新入社員等を対象とした安全衛生教育などに注力すると共に、製造現場では指差呼称、ヒヤリハット気がかり提案、危険予知活動、リスクアセスメントの徹底など日常的な安全活動を通して安全な風土づくりに努めています。

|               |                   | 実 績 値  |        |        |        |        |
|---------------|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|               |                   | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
| 休業災害発生件数      | 単 独               | 0      | 0      | 0      | 2      | 1      |
|               | グ ル ー プ 会 社       | 3      | 2      | 3      | 6      | 5      |
|               | 連 結 合 計           | 3      | 2      | 3      | 8      | 6      |
| 不 労 災 害 件 数   | 単 独               | 6      | 2      | 2      | 4      | 1      |
|               | グ ル ー プ 会 社       | 3      | 1      | 1      | 9      | 4      |
|               | 連 結 合 計           | 9      | 3      | 3      | 13     | 5      |
| 休 業 災 害 度 数 率 | 単 独               | 0.00   | 0.00   | 0.00   | 1.25   | 0.61   |
|               | 連 結 合 計           | 1.02   | 0.67   | 1.80   | 2.21   | 1.51   |
|               | ※ (参考)プラスチック製造業平均 | 0.10   | 0.17   | 0.31   | 0.10   | 0.32   |
| 全 災 害 度 数 率   | 単 独               | 3.31   | 1.31   | 1.28   | 3.75   | 1.22   |
|               | 連 結 合 計           | 3.75   | 1.67   | 1.80   | 5.81   | 2.77   |

※プラスチック製造業平均度数率は、2019年1月～2019年12月分を調査されたもの。

本年より 旭有機材データは年度データ(2019年4月～2020年3月)としました。

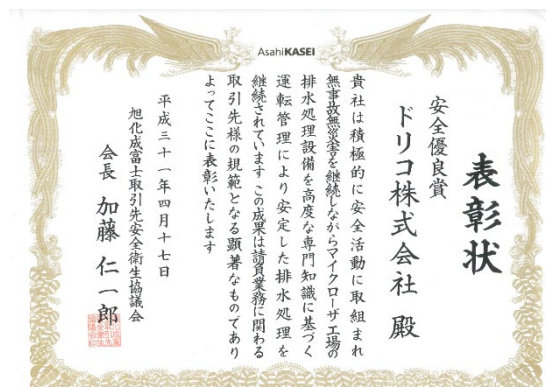


## ・環境・安全大会

2020 年 3 月、愛知工場にて第 16 回全社環境・安全大会を開催し、特別講演として、フリーアナウンサー 荒生暁子様による「安全・安心の話し方～伝達不全をなくし、ゼロ災害～」及び中央労働防止協会 九州安全衛生サービスセンター 原岡義彦様による「労働災害防止対策の原点～危険を危険と気づくために」を行う予定でしたが、新型コロナの影響にて残念ながら中止いたしました。

ドリコ株式会社では 2019 年 6 月、「ドリコ 安全と健康を守る会 定時総会」及び「ドリコ株式会社安全大会」を開催しました。

当日は多くの協力会社様にご参加いただき、安全大会では安全衛生・品質管理室長による安全講話、安全表彰及び安全標語の投票結果が発表され安全宣言（安全の誓い）が行われました。



ドリコ株式会社安全大会(懇親会) 2019

ドリコ株式会社では 2019 年 4 月、旭化成様より長年の排水処理設備の運転管理業務の無事故無災害継続により「安全優良賞」を受賞し表彰されました。

## ・経営者による環境・安全パトロール

2019 年 7 月、「経営者と共に組織的・系統的な安全マネジメント体制を確立する」をテーマとして当社の国内すべての製造工場を対象とした社長安全パトロールが実施され、全社の労働安全衛生活動方針の下、各工場構内での実践状況や最近の事故災害等に関する対策についての報告がなされました。

また、2019 年 10 月～11 月、事業部長安全パトロールも実施されました。



環境・安全パトロール（延岡工場）



環境・安全パトロール（愛知工場）



環境・安全パトロール（栃木工場）



環境・安全パトロール（広島工場）

### ・海外関係会社の安全査察

当社では安全教育を国内事業所から海外関係会社まで幅広く展開することを推進しており、アサヒアメリカ、インド工場、メキシコ工場など海外関係会社への安全査察及び安全教育を実施し社員の安全意識を高めました。



メキシコ工場



アサヒアメリカ



インド工場安全教育の様子



### ・中国関係会社の10周年記念行事

中国上海に設立されている旭有機材閥門設備有限公司（管材工場）、旭有機材商貿有限公司（販社）及び南通に設立されている旭有機材樹脂有限公司（樹脂工場）は共に操業10周年を迎え、これまでの10年に感謝を込めると同時に更なる成長を目指して盛大に記念パーティーを行いました。



上海での記念パーティー



南通での記念パーティー

### ・5S活動

安全・品質等の向上のため、トヨタ式5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を学習し、実践しています。

## 3) 社員の健康促進

### ・健康教室の開催

当社愛知工場では愛知県丹羽郡扶桑町の保健センターと連携し、保健師を派遣していただいて社員の健康保持増進のための健康教室を開催しています。

定期健康診断の受診後のタイミングに合わせ、3回にわたり以下の3つのテーマを取り上げました。

- ・第1回：健康診断個人票の見方について
- ・第2回：健康増進のための簡単は運動について
- ・第3回：食事生活の改善について

この講習会により社員の健康に関する意識も変わり、最近では健康診断での有所見率の改善もみられます。



健康教室での聴講の様子



簡単な運動の様子

## 4. 保安防災への取り組み

### 1) 保安防災に関する基本方針

当社グループは、安定操業の維持と保安防災管理のレベルの向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保するために保安防災活動を推進しています。

その一環として主要拠点でのBCP（事業継続計画）の構築に取り組むと共に、緊急時対応のための訓練も実施しています。

### 2) 取り組み事例

#### ・保安防災活動

当社では事業所ごとに防火・防災訓練を定期的を実施しています。

これは事業所の自衛消防隊組織の確立を図ることを目的に、当該自衛消防隊としての消火活動に必要な知識や技能を習得するものです。

2019年9月には延岡の製造所柵内に市消防署の消防車を入れ訓練を実施しました。特に4Fなどに取り残されることを想定したはしご車による救助訓練も実施しました。



消火訓練の様子



屋上からの救助訓練の様子

また愛知工場では、10月に管轄の丹羽消防署主催の「通報 → 人命救助 → 初期消火までのタイム」を競う消防技術教練会に5名参加し、消防技術の向上を図りました。

なお、2019年度は当社の参加者が準優勝しました（全参加者50名）。



消防技術教練会の様子

### ・シェークアウト訓練

当社では地震などの自然災害に備え緊急地震速報装置を設置しており、緊急地震速報訓練と連携した「シェークアウト訓練」を定期的を実施しています。これは地震が発生したときに安全確保行動 1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける訓練であり、いざという時に備えておくために必要不可欠なことです。

2019 年も例年通り消防庁などの行政機関の呼びかけに応じ 11 月に実施しました。



シェークアウト訓練の様子

## 5. 製品安全への取り組み

### 1) 製品安全に関する基本方針

当社グループは、経営理念のひとつに「お客様の信頼が命です」を掲げ、お客様に信頼され、満足していただける製品・サービスの提供に努めており、より優れた、より安全な製品・サービスの提供を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することを目指しています。

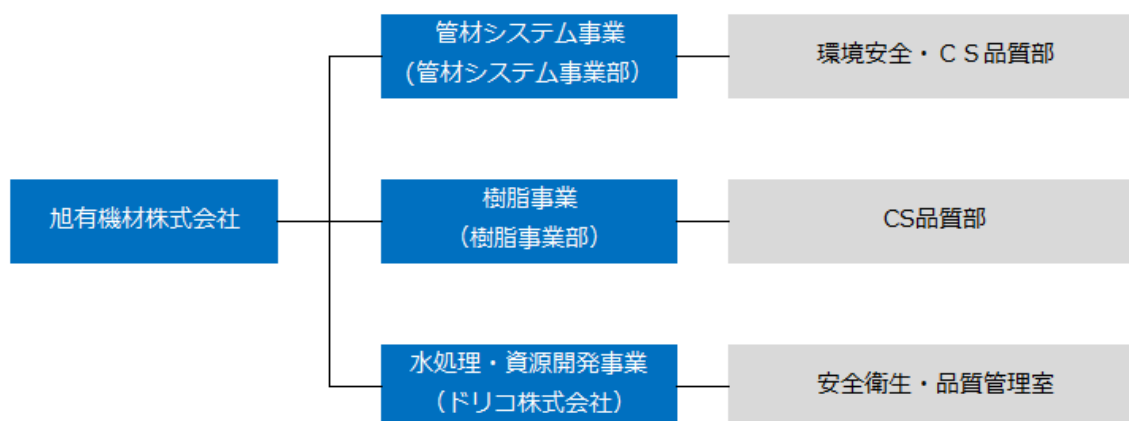
#### 製品安全に関する基本方針

顧客の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人間の幸福と社会の発展に寄与する。

- 顧客の立場で製品を開発すること。
- 技術を錬磨し、品質管理を徹底して、ものづくりをすること。
- 製品を正しく安全に使っていただく営業を実践すること。
- 製品がその効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること。

### 2) 製品安全に関する社内推進体制

当社は事業部に品質保証部門を設置し、ISO9001 品質マネジメントシステムをベースに品質保証・製品安全体制を構築し、お客様のお役立ちを第一に考えるものづくりに取り組んでいます。





### 3) 製品安全に関する取り組み

#### ・行為保証・品質工学による取り組み

延岡工場では、2011 年より「行為保証」への取り組み等を通して品質トラブル撲滅を推進した結果、製造品質をより一層強化することができました。

更に工程の上流である設計・開発に起因するトラブルを撲滅するために、2018 年 9 月より「品質工学」への取り組みをスタートし、社外専門家である株式会社ジェダイト鶴田明三講師をお招きし、毎月品質工学インハウスセミナーを開催しています。



品質工学受講の様子

## 6. 地域・社会との協調と共生

### 1) 地域・社会との協調と共生に関する基本方針

当社は「法と社会規範を守り、社会と共に歩みます」の経営理念の下に、積極的に地域との交流活動を行っています。

### 2) 取り組み事例

通報から救急車が到着するまでの間に救命処置を行う「応急手当普及員」の資格を取得している当社愛知工場の社員が「応急手当普及員講習」の開催の支援を行っています。

今回は愛知県の扶桑中学校、高尾小学校、扶桑東小学校の 3 校にて AED の使い方など、救命救助法の始動を支援しました。



応急手当講習の様子

### ・インドネシアからの実習生受け入れ

当社は外国人技能実習制度を活用し、現在インドネシアからの実習生を8名ずつ2期計16名受け入れています。

当制度の目的は日本の技能や技術を新興国に移転し現地の人財づくりに寄与することであり、また当社にとっても貴重な若手人財を獲得できるメリットがあります。



インドネシア実習生（1期生）の様子

### ・献血活動

当社延岡工場では、国内で使用する血液製剤のすべてを献血により賄うという国の方針に沿って取り組んでいる宮崎県赤十字センターの献血推進活動に協力しています。

2019年は延岡工場構内で4月、9月に献血を行い100名の目標に対して103名が受付し、99名がそれぞれ400mlの献血を実施しました。

また、愛知工場においては6月に献血を行い、受付総数25名で23名の方に献血を行ってもらいました。



延岡工場での献血の様子

### ・藤前干潟の不法投棄ごみと漂着ごみの撤去

2019年10月に愛知県産業廃棄物協会が行政機関との連携で行う「藤前干潟不法投棄ごみ撤去作業」が例年通り実施され、当社愛知工場の社員が参加しました。

藤前干潟は愛知県の西部に位置し、伊勢湾に残る最後の大規模な干潟で、シギ・チドリ類やオナガガモ・スズガモのカモ類などの渡り鳥の飛来地として有名な場所です。

2018年度から継続しているごみ撤去活動ですが、大量の不法投棄ごみや漂着ごみは依然として存在し、藤前干潟の大きな課題であります。約2時間の撤去作業で燃えるごみ約0.65t、燃えないごみ約1.45tの他に、処理施設にもちこめないごみ（タイヤや冷蔵庫など）を撤去しました。



藤前干潟の景観



ごみの撤去の様子



### ・新「ゆうきの森・上三輪」第2回植樹活動

当社は宮崎県が取り組んでいる「企業の森づくり」に2008年より参画しており、第二期植樹活動として延岡市上三輪町（かみみわまち）での森林整備に取り組んでいます。

2019年は4月に第2回植樹活動を開催し、ヤマザクラ 1,125本及び、モミジを1,150本ずつ植樹しました。最終的には8,250本を植樹する予定です。宮崎県の算定によると「ゆうきの森・上三輪」の二酸化炭素吸収量は144 t-CO<sub>2</sub>と見込まれています。



植樹活動参加者



植樹活動の様子

### ・地域の夏祭りへの参画

当社の宮崎県延岡地区、栃木工場では地域活性化活動の一環として夏祭りに参加しています。

宮崎県延岡市の「第42回 まつりのべおか」は2019年7月に開催され、当社社員104名が参加し「ばんば踊り」を踊り、太鼓競演会や花火大会なども開催されました。

また、栃木工場がある栃木県大田原市では「第38回 与一祭り」が2019年8月に開催され、27名の当社社員が参加し「与一踊り」を踊りました。



まつりのべおかの様子（延岡市）



与一祭りの様子（大田原市）

#### ・バーベキュー大会（延岡）

延岡地区では、2019 年 4 月に社員の親睦を深める目的でバーベキュー大会を実施し、大勢の社員が参加しました。



バーベキュー大会の様子